

The Japanese Journal of PHYCOLOGY

CONTENTS

| | |
|--|-------------------|
| Hiroyuki Ito: Chrysophytes in the southern part of Hyogo Prefecture, Japan (I) Chrysophyte flora in three ponds and a reservoir | 327 |
| Tamotsu Nagumo and Yoshiaki Hara: Species composition and vertical distribution of diatoms occurring in a Japanese mangrove forest | 333 |
| Michio Masuda and Makoto Sasaki: Taxonomic notes on Japanese <i>Ptilota</i> (Ceramiales, Rhodophyta)..... | 345 |
| Michiyo Nakagawa, Tetsuko Noguchi and Katsumi Ueda: Effect of vinblastin and cytochalasin B on cell division in <i>Oedogonium capilliforme</i> | 355 |
| P. M. Sivalingam and Kazutosi Nisizawa: Ozone hole and its correlation with the characteristic UV-absorbing substance in marine algae..... | 365 |
| Sandra C. Lindstrom and Kathleen M. Cole: <i>Porphyra fallax</i> , a new species of Rhodophyta from British Columbia and northern Washington | 371 |
| Shinji Kirihara, Masahiro Notoya and Yusho Aruga: Cultivation of <i>Campylaeophora</i> <i>hypnaeoides</i> J. AGARDH (Ceramiales, Rhodophyta)(in Japanese) | 377 |
| ◆◆◆ | |
| Notes | |
| Doris M. Sinkora and Michael J. Wynne: On the identity of <i>Talarodictyon tilesii</i> ENDLICHER | 383 |
| Masahiro Notoya and Yusho Aruga: Tissue culture from the explant of stipe of <i>Eisenia</i> <i>bicyclis</i> (KJELLMAN) SETCHELL (Laminariales, Phaeophyta) | 387 |
| Hideo Ohba: Exhibition of <i>Caulerpa</i> plants in Japanese aquaria(in Japanese) | 391 |
| ◆◆◆ | |
| The 5th Japanese Society of Phycology Workshop..... | 395 |
| Abstracts of the Japanese Society of Phycology Symposium.....(in Japanese) | 397 |
| Announcement | (in Japanese) 399 |
| Japan Science Council News..... | (in Japanese) 403 |
| Contents of Volume 38 | i-iv |

日本藻類学会

日本藻類学会は1952年に設立され、藻学に関心をもち、本会の趣旨に賛同する個人及び団体の会員からなる。本会は定期刊行物「藻類」を年4回刊行し、会員に無料で頒布する。普通会員は本年度の年会費7,000円（学生は5,000円）を前納するものとする。団体会員の会費は12,000円、賛助会員の会費は1口20,000円とする。

庶務および会計に関する通信は、602 京都市上京区下立売通小川東入 日本藻類学会宛に、また「藻類」への原稿の送付は 108 東京都港区港南4-5-7 東京水産大学 有賀祐勝気付 日本藻類学会編集委員会宛にされたい。

The Japanese Society of Phycology

The Japanese Society of Phycology, founded in 1952, is open to all who are interested in any aspect of phycology. Either individuals or organizations may become members of the Society. The Japanese Journal of Phycology (SÔRUI) is published quarterly and distributed to members free of charge.

Inquiries and other information regarding the society should be addressed to **The Japanese Society of Phycology, Shimotachiuri Ogawa Higashi, Kamikyoku, Kyoto, 602 Japan.** The annual dues (1990) for overseas members are 7,000 Yen (Send the remittance to The Japanese Society of Phycology at the above address).

Manuscript for publication should be submitted directly to the Editor-in-Chief, **Prof. Y. Aruga, Tokyo University of Fisheries, Konan-4, Minato-ku, Tokyo, 108 Japan.**

1989-1990年役員

会 長：小林 弘 (東京学芸大学)
庶務幹事：片山 舒康 (東京学芸大学)
会計幹事：真山 茂樹 (東京学芸大学)
評 議 員：
秋山 優 (島根大学)
有賀 祐勝 (東京水産大学)
鯨坂 哲朗 (京都大学)
千原 光雄 (筑波大学)
原 慶明 (筑波大学)
岩崎 英雄 (三重大学)
増田 道夫 (北海道大学)
三浦 昭雄 (東京水産大学)
野沢 治治 (鹿児島大学)
小河 久朗 (東北大学)
大森 長朗 (山陽学園短期大学)
奥田 武男 (九州大学)
館脇 正和 (北海道大学)
坪 由宏 (神戸大学)
渡辺 信 (国立公害研究所)
横浜 康継 (筑波大学)

編集委員会：

委員長：有賀 祐勝 (東京水産大学)
幹 事：能登谷正浩 (東京水産大学)
実行委員：堀 輝三 (筑波大学)
田中 次郎 (国立科学博物館)
横浜 康継 (筑波大学)
委 員：榎本 幸人 (神戸大学)
石川依久子 (大阪大学)
加藤 哲也 (京都大学)
鬼頭 鈞 (水産大学校)
野田 宏行 (三重大学)
奥田 武男 (九州大学)
館脇 正和 (北海道大学)
渡辺 信 (国立公害研究所)
籾 巖 (北海道大学)
吉田 忠生 (北海道大学)

Officers for 1989-1990

President: Hiromu KOBAYASI (Tokyo Gakugei University)
Secretary: Nobuyasu KATAYAMA (Tokyo Gakugei University)
Treasurer: Shigeki MAYAMA (Tokyo Gakugei University)
Members of Executive Council:
Masaru AKIYAMA (Shimane University)
Yusho ARUGA (Tokyo University of Fisheries)
Tetsuro AJSAKA (Kyoto University)
Mitsuo CHIHARA (University of Tsukuba)
Yoshiaki HARA (University of Tsukuba)
Hideo IWASAKI (Mie University)
Michio MASUDA (Hokkaido University)
Akio MIURA (Tokyo University of Fisheries)
Koji NOZAWA (Kagoshima University)
Hisao OGAWA (Tohoku University)
Takeo OHMORI (Sanyo Gakuen Junior College)
Takeo OKUDA (Kyushu University)
Masakazu TATEWAKI (Hokkaido University)
Yoshihiro Tsubo (Kobe University)
Makoto M. WATANABE (National Institute for Environmental Studies)
Yasutsugu YOKOHAMA (University of Tsukuba)
Editorial Board:
Yusho ARUGA (Tokyo University of Fisheries), Editor-in-Chief
Masahiro NOTOYA (Tokyo University of Fisheries), Secretary
Terumitsu HORI (University of Tsukuba), Associate Editor
Jiro TANAKA (National Science Museum), Associate Editor
Yasutsugu YOKOHAMA (University of Tsukuba), Associate Editor
Sachito ENOMOTO (Kobe University)
Ikuko SHIHIRA-ISHIKAWA (Osaka University)
Tetzuya KATO (Kyoto University)
Hitoshi KIRO (Shimonoseki College of Fisheries)
Hiroyuki NODA (Mie University)
Takeo OKUDA (Kyushu University)
Masakazu TATEWAKI (Hokkaido University)
Makoto M. WATANABE (National Institute for Environmental Studies)
Hiroshi YABU (Hokkaido University)
Tadao YOSHIDA (Hokkaido University)

日本藻類学会第15回大会のお知らせ

日本藻類学会第15回大会を下記の要領で開催します。奮ってご参加下さい。

会 場：琉球大学教養部 〒903-01 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地

電話 098 (895) 2221 大学代表

会 期：1991年 3月26日 (火) 編集委員会・評議員会

27日 (水) 口頭発表・特別講演・懇親会

28日 (木) 口頭発表・展示発表・総会

29日 (金) } 海藻採集会

30日 (土) } 於 琉球大学熱帯海洋科学センター

申 込 先：

大会・懇親会・発表の申込票、発表要旨の送付、連絡は下記宛をお願いします。

〒905-02 沖縄県国頭郡本部町字瀬底3422

琉球大学熱帯海洋科学センター内

日本藻類学会第15回大会準備委員会

電話 0980 (47) 2888 (香村)

FAX 0980 (47) 4919 (発表要旨以外の通信のみ可)

参加申込：

- 1) 大会参加者は、発表の有無にかかわらず、本誌に綴込みの大会申込票に必要事項を記入して、上記の第15回大会準備委員会あて、お送り下さい。
- 2) 大会費2,500円 (学生2,000円)、および懇親会費3,000円を同封の振替用紙でお送り下さい。
送金先：振替 鹿児島1-45036 日本藻類学会第15回大会準備委員会。
- 3) 大会参加申込み、送金、下記の発表要旨送付の締切は**1991年 1月10日**です。

発 表：発表を希望される方は、本誌に綴込みの発表申込票に必要事項を記入し、発表要旨の原稿を添えて、お申込み下さい。

- 1) 発表には、口頭発表と展示発表の2種類があります。希望する方を○で囲んで下さい。
- 2) 口頭発表：発表時間は、質疑応答の時間を含めて15分です。

使用スライドは35mm版、スライド枠には、図1のように発表者氏名、発表番号 (大会プログラムに記されているもの)、スライド総枚数、映写順序、上辺マークを御記入下さい。同じスライドを繰返し映写する場合は、それに見合う枚数を御用意下さい。

- 3) 展示発表：パネルの大きさは、1題につき、縦1.8m×横0.9mの予定です。展示パネルの上部には、図2のように発表番号、演題、氏名、所属を明記して下さい。その他のスペースは自由に利用して下さい。

表題には5cm以上、説明文には1cm以上の文字を使用し、文章は必要最小限にとどめて下さい。
展示物の糊付けは27日午前中をお願いします。

- 4) 発表 (口頭発表・展示発表) の申込は、本誌の綴込みの原稿用紙に要旨を記入して、**1991年 1月10日**必着で、上記の準備委員会宛にお送り下さい。

原稿はそのままオフセット印刷に回します。タイプライター、ワード・プロセッサ、パソコン等何れを使っても結構ですが、印字は明瞭な黒字をお願いします。

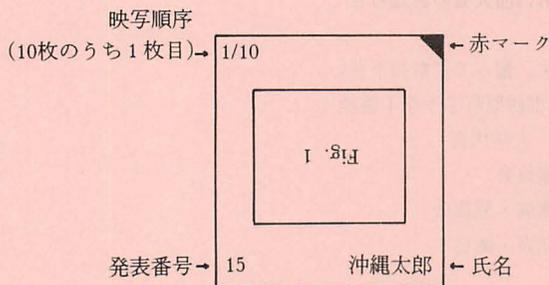


図1. 使用スライド記入例.

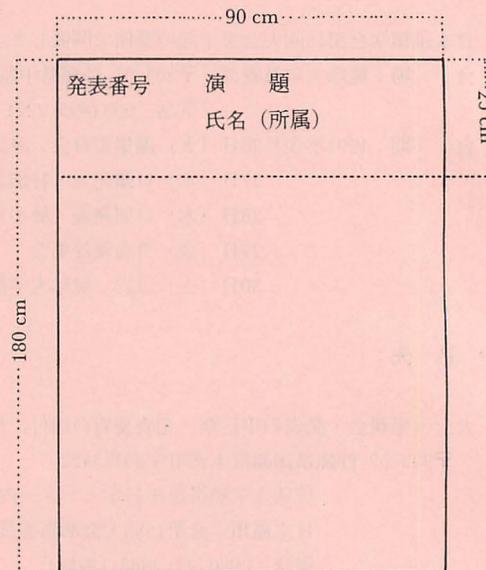


図2. 展示パネル説明図.

宿泊案内：会場周辺には、1 宿泊施設（ぎのわんセミナーハウス 宜野湾市内、会場まで徒歩約10分）しかありません。那覇市内のバス停に近い宿泊施設を紹介いたします（大学近くまでの所用時間約40～50分）。下記の表を参考に直接予約下さい。大会期間中は観光シーズンにあたりますので、予約はお早目にしてください。

会場周辺（宜野湾市内）

| 施設名 | 料金 | TEL(098) | 所在地 |
|-------------|-------------|----------|-----|
| ぎのわんセミナーハウス | 2,600～6,000 | 898-4361 | 志真志 |

仮予約（40名：シングル，ツイン，和室など）してあります。希望者は平成3年1月15日までに大会準備委員会宛お申込み下さい。準備委員会が調整後、申込者各位に直接連絡いたします。

那覇市内

| 施設名 | 料金 | TEL(098) | 所在地とバス停 |
|-------------|----------------|----------|--------------|
| ローヤルホテル | 4,000 (6,000) | 863-2131 | 安里 (安里) |
| ホテル山市 | 4,200 (7,400) | 866-5421 | 牧志 (牧志) |
| 沖縄郵便貯金会館 | 4,800 (8,400) | 887-5000 | 松川 (観音堂前) |
| ニューオーシャンホテル | 5,000 (9,500) | 887-6023 | 安里 (安里) |
| 第一ホテル | 5,000 (10,000) | 867-3116 | 安里 (安里) |
| ホテル共同 | 5,150 (9,270) | 868-5771 | 東 (バスターミナル) |
| ホテルエメラルド | 5,360 (10,300) | 862-1320 | 安里 (安里) |
| 共済会館八汐荘 | 5,500 (9,900) | 867-1191 | 松尾 (松尾) |
| ナハグランドホテル | 5,500 (9,800) | 862-6161 | 松尾 (松尾) |
| ホテルタイラ | 5,500 (10,000) | 868-4515 | 松山 (バスターミナル) |
| のざき観光ホテル | 5,500 (10,000) | 862-6121 | 松尾 (松尾) |
| 自治会館 | 5,650 (9,000) | 862-8181 | 旭町 (バスターミナル) |
| ホテル国際プラザ | 6,000 (11,400) | 862-4243 | 松尾 (松尾) |

| | | | |
|-------------|-----------------|----------|--------------|
| 沖縄ホテル | 6,600 (12,100) | 884-3191 | 大道 (坂下) |
| 那覇セントラルホテル | 7,000 (13,000) | 867-3466 | 牧志 (牧志) |
| 沖縄不二ホテル | 7,000 (13,000) | 868-1118 | 西 (バスターミナル) |
| 南西観光ホテル | 7,500 (14,000) | 862-7144 | 牧志 (安里) |
| ホテル西武オリオン | 8,000 (16,000) | 866-5533 | 安里 (安里) |
| 沖縄都ホテル | 8,500 (14,000) | 887-1111 | 松川 (観音堂前) |
| ハーバービューホテル | 9,000 (18,000) | 853-2111 | 泉崎 (バスターミナル) |
| 沖縄グランドキャッスル | 10,000 (15,000) | 886-5454 | 山川 (山川) |

* 宿泊料金はシングルルームのルームチャージ料金です。括弧内はツイン料金です。

* 那覇市内の宿泊施設は町名のみを示してあります。括弧内は最寄りの市外バス停です。那覇市内のバス停には市内線と市外線がありますので御注意下さい。

* 那覇空港から宜野湾市内の宿泊施設 (ぎのわんセミナーハウス) へは、高速バス (系統番号111) をご利用下さい (琉大入口下車徒歩約5分)。

* 那覇市内から会場へは、琉大線 (系統番号98, 琉球バス: 琉大北口下車徒歩約5分)、宜野湾線 (系統番号97, 那覇交通: 琉大東口下車徒歩約5分)、石川 (首里経由) 線 (系統番号25, 那覇交通: 中部商業高校前下車徒歩約15分)、屋慶名 (大謝名経由) 線 (系統番号27, 那覇交通: 中部商業高校前下車徒歩約15分) をご利用下さい。

日本藻類学会主催海藻採集会のお知らせ

下記の要領により瀬底島周辺での海藻採集会を開催します。ご希望の方は下記の琉球大学熱帯海洋科学センターに直接お申込み下さい。

- 期 日: 1991年3月28日(木)-3月31日(日)
- 日 程: (天候等により一部変更する場合があります)
 - 3月28日(木) 大会終了後、大学のバスで熱帯海洋科学センターへ移動。または個人で行かれる方は19:00にセンターに到着のこと。
夕食・日程説明・センター宿泊
 - 3月29日(金) 瀬底島周辺で採集 センター宿泊
 - 3月30日(土) 備瀬(沖縄海洋博記念公園近く)で採集 懇親会・センター宿泊
 - 3月31日(日) 朝食後、自由解散
- 会 場: 琉球大学熱帯海洋科学センター
〒905-02 沖縄県国頭郡本部町字瀬底3422
電話 0980-47-2888
FAX 0980-47-4919
- 講 師: 北海道大学理学部 吉田 忠生, 国立科学博物館 田中 次郎,
琉球大学熱帯海洋科学センター 香村 真徳
- 参加費: 臨海クラブ費 1泊 350円
食 費 3食 2,000円
クリーニング代 550円
懇親会費 1,000円
参加希望者に参加の可否、日程等の詳細をお送りし、参加希望日程、希望事項等を御返信いただき、参加者の日程から参加費を算出、納入期日など参加者各位に直接連絡いたします。
- 定 員: 20名
希望者多数の場合には先着順としますので予めご了承下さい。
- 申 込: 1991年1月末日までに葉書に1) 氏名, 2) 連絡先, 3) 所属を明記の上、上記の熱帯海洋科学センターに直接お申込み下さい。
- その他: 採集具、標本作製・整理用品などご希望により出来る限り用意いたします。潜水器具(マスク、フィン、ウェットスーツ)は各自各御持参下さい。

○田中二郎*・伊藤真理**：褐藻アミジグサ科
のフクリンアミジとサナダグサの形態

アミジグサ目アミジグサ科のニセアミジ属とサナダ
グサ属には日本産の種類としてそれぞれフクリンアミ

・・・・・・・・・・が中央部付近
で多糖になることがある。精子のうは表皮上に盛り上
がって形成される。

(*国立科博・植物研, **日本女子大・家政)

○渡辺 信*・L. GARY**：クラミドモナス目
とクロロコックム目（緑藻綱）の6種における2本
鞭毛遊走細胞の微細構造

Dunaliella lateralis (クラミドモナス目), Spon-
giochloris spongiosa, Protosiphon botryoides,
Tetracystis aerea,

・・・・・・・・・・には ABBがみら
れず, BBのなす角度が大きく変化し, 細胞は裸であ
る。

(*富山大, **オハイオ州立大)

日本藻類学会第15回大会申込用紙

大会・懇親会申込票

(フリガナ)

氏名：_____ 所属：_____

連絡先(自宅・勤務先)：☎ _____

発表： する(単独・連名), しない。

懇親会： 参加, 不参加。

送金額：(不必要な個所を消して下さい。同封の振替用紙で御送金下さい。)

大会参加費 2,500円(学生 2,000円)

懇親会費 3,000円 送金合計額 _____円

発表申込票

(連名の場合は演者が申込みをし、演者の左肩に*印をつけて下さい)

発表の種類(希望する方を○で囲んで下さい)：

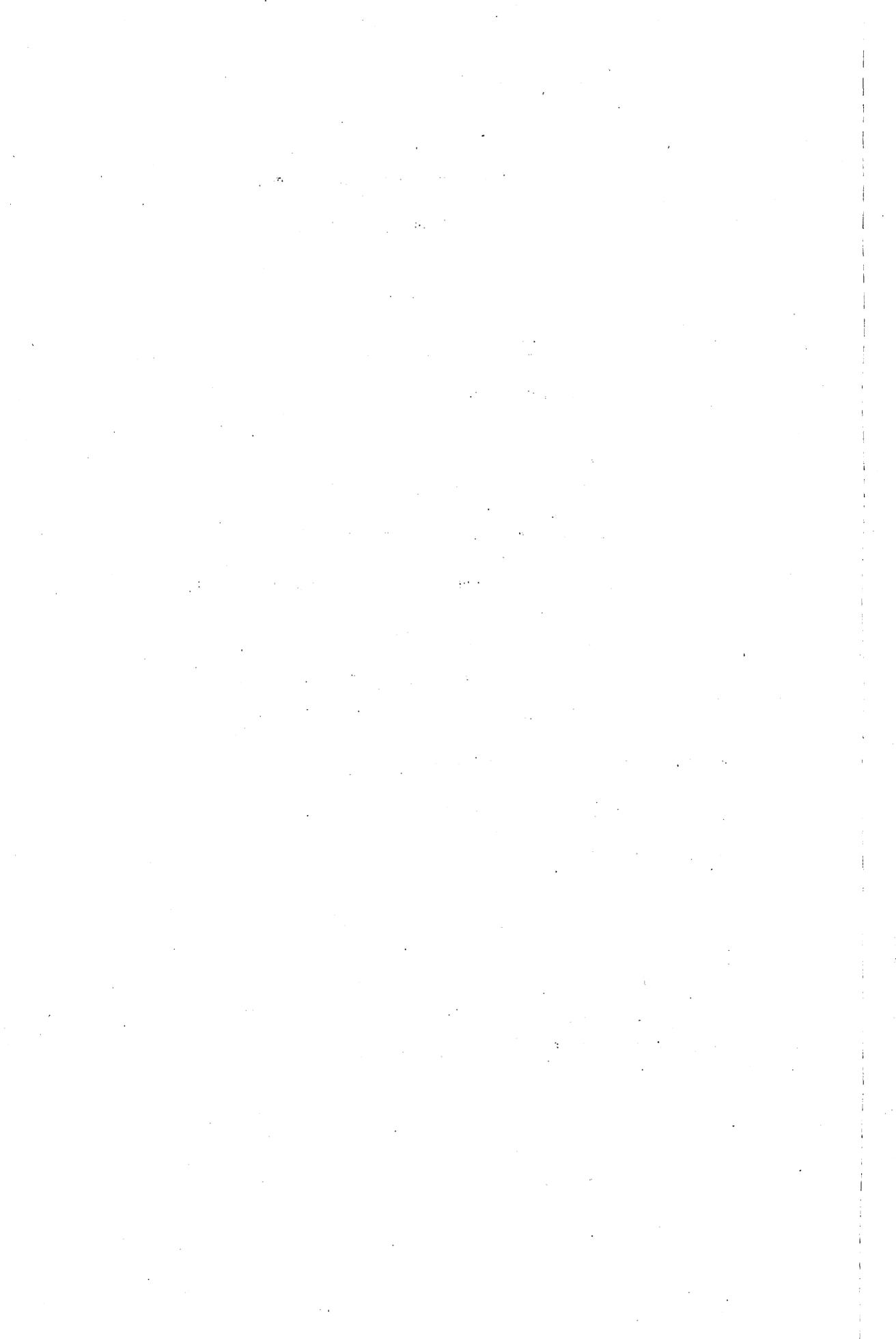
口頭発表, 展示発表。

発表番号(当方で記入します)： _____

氏名(所属)： _____

演題： _____

連絡先：(連名の場合は演者) _____ ☎ _____



要旨原稿の書きかた

- (1) 横 100 mm 縦 150 mm の枠内に24字×22行の印字を標準とする。
- (2) 著者名、表題、要旨本文、所属の順に書く。
- (3) 1行目は初めの3字分(約 12.6 mm)をあける。
- (4) 著者が複数の場合は、講演者に○をつける。
- (5) 表題が2行または3行にわたる場合は、初めの1字分(約 4.2 mm)をあける。
- (6) 表題と要旨本文との間は1行分あける。
- (7) 要旨本文は初めの1字分をあける。
- (8) 所属は()内に入れる。
- (9) 区読点は「,」(コンマ)と「。」(マル)を使う。

要 旨 原 稿

要旨原稿の書きかた

1. 横 100 mm 縦 150 mm の枠内に24字×22行の印字を標準とする。

